

# 正しい歴史を学び、日本に自信を持とう！

山下英次

「日本の真の独立を目指す有識者会議」創立者・副議長  
国際政治経済学者

大阪市立大学名誉教授・経済学博士

於・フリースクール「寺子屋のびの～び」、東京都日野市  
2025年 5月 22日

# 正しい歴史を学べば、日本に自信を持てる！

- ・日本とアメリカが戦争したのを知っていますか？
- ・いつ戦争が終わったのか、知っていますか？  
；1945年8月15日？ → 热戦の終了  
热戦 = 3年 8カ月間  
；1945年9月2日？ → 日本軍の服従（戦艦ミズーリ）
- ・1945年9月～、心理戦の開始
- ・本当の終戦 = 1952年4月28日（日本の主権回復）  
；心理戦 = 7年間近く



10:00~18:00

10:00~16:00

展示至ルーム

東京都文京区春日1-16-21  
\*都営地下鉄三田線・大江戸線春日駅  
(文京シビックセンター連絡口) 徒歩1分  
\*東京メトロ丸ノ内線・南北線後楽園駅  
(5番出口) 徒歩1分

## 日本よ 占領軍の洗脳から目覚め 真の独立国になれ!!



待ちし

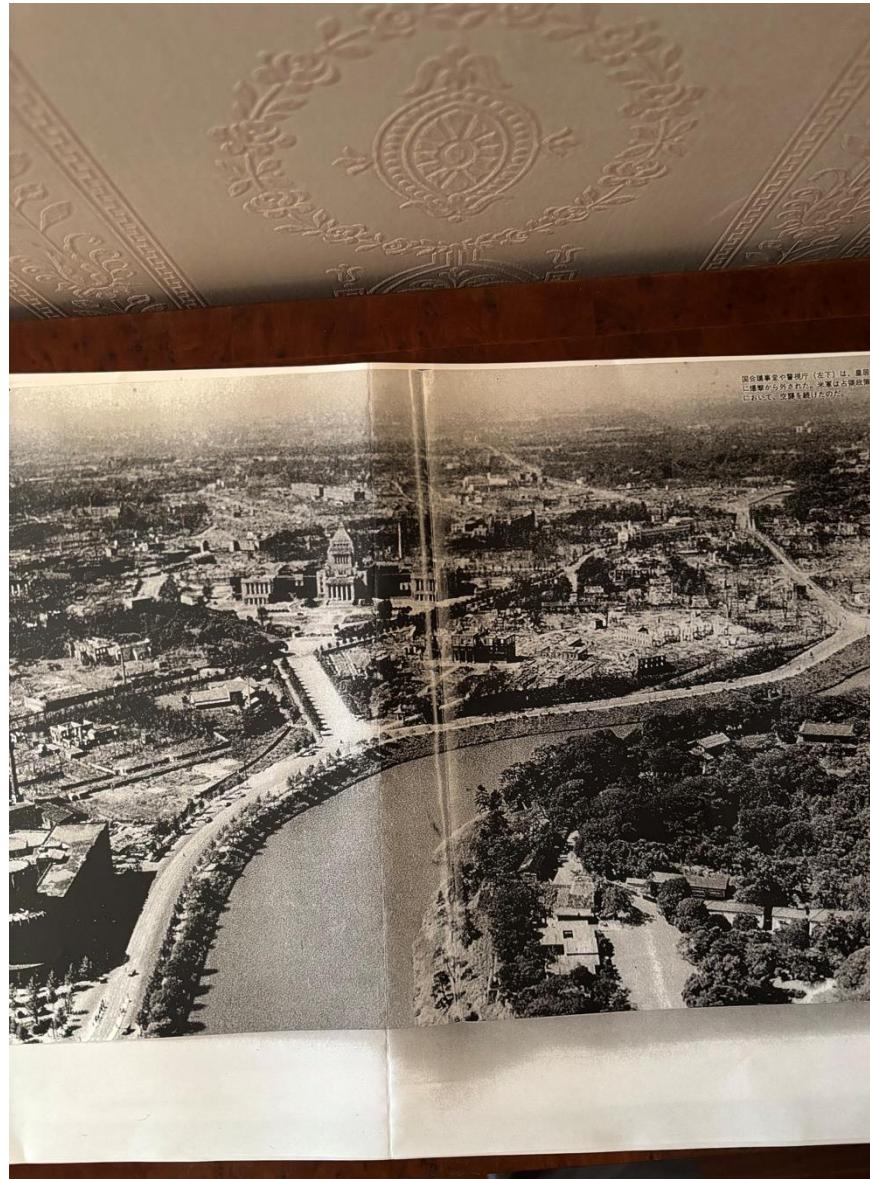
昭和20年(1945年)9月2日 アメリカ戦艦ミズーリ号で  
降伏文書調印式に臨む日本代表団11名。

教科書をつくる会 東京支部 TEL.03-6912-0047



GHQ(連合軍最高司令部) 第一生命ビルを接收し1945年9月17日より業務を開始した。屋上  
は旧日本軍の防空設備のまま。

東京八重洲口方面より皇居を望む (1945年10月撮影)。向側中央左の建物は中央郵便局。





# 占領軍（GHQ）の大きな目的

- ① 日本人の愛国心（国家意識）を失わせる
  - ；アメリカの神をもおそれない行為として非難すべき  
→ かなり成功してしまった
  - ；「外国が攻めてきたら、自分の国を守るために戦うか？」  
に関する世論調査  
→ 日本（13%台）は、世界で断トツの最下位
- ② 日本精神を骨抜きにする（伝統を破壊する）
  - これは、それほど成功していないかも

# GHQ洗脳作戦の7つ柱 (1)

\* 米軍は、戦中 = 日本都市に対する火力の絨毯爆撃  
熱戦後 = 日本人の頭の中に入り込んで思想の絨毯爆撃

① GHQが押し付けた憲法

② 公職追放

；合計21万人、家族を含めると100万人が影響

；占領時最大の社会的恐怖

→ 「泣く子も黙る占領軍」

；日本の支配層の大掃除

③ GHQによる焚書（ふんしょ）・坑儒（こうじゅ）

；7,000冊以上が禁書に指定

# GHQ洗脳作戦の7つ柱 (2)

；教職追放（学校の先生をクビにする）

教職不適格処分が7,000人以上

自発的に辞めた人が116,000人

=戦前にいた教員50万人のうち25%が入れ替わった

④ 日本の伝統的な歴史・道徳教育の全面的な禁止

；国家神道の禁止

；「八紘一宇」、「大東亜戦争」の用語使用禁止

；『古事記』、『日本書紀』、神武天皇の国造り神話の禁止

# GHQ洗脳作戦の7つ柱 (3)

；修身、歴史、地理の教育禁止 (1945-12-31)

日本人であることの人格の重要な部分を奪い去るかのよう  
な全く不当な措置

；衆参両院における「教育勅語」の排除・失効、1948年6月

⑤ WGIP (戦争犯罪情報プログラム)

；GHQのCIE (民間情報教育局) が担当 = 洗脳部隊

第1段階；GHQ洗脳のバイブルである冊子『太平洋戦争史』  
を広める段階

- 力に歴向かった日本を強調するよう「太平洋戦争」の使用を GHQ は押しつけた。
- ② 民間情報教育局（CIE）は、『日本軍の残虐行為がいたるところで行われた』という内容の「太平洋戦争史」というシナリオを書き上げ、これをバイブルとして、全国紙の新聞に 10 日間各家庭に配布、NHK ラジオで 3 年間放送、小中学校の教材として 10 万部配布。一般国民・小中学校生に、「太平洋戦争史」をバイブルとして洗脳教育を行った。その内容は、敗戦まで国民に知らされていなかった太平洋戦争の真相を暴露するとし、日本軍の残虐行為をでっち上げ、強調するものであった。
- ③ 民間情報教育局（CIE）は先ず修身、日本歴史、地理の授業停止と教科書の回収・廃棄、教科書の改訂を指令した。停止された授業の空白時間に『日本軍国主義者と日本国民は違う』という GHQ のプロパガンダの書籍「太平洋戦争史」（参照：下図）を 10 万部印刷して、子供たちに教えることを指示した。



(出典：ウキペディア)

### 真相はかうだ (旧かなづかい: 真相はこうだ)

#### 1. ラジオを使った洗脳

- ① GHQ は、徹底的に日本の歴史と伝統を破壊するため、日本人の精神の完全なコントロールにより日本人再教育及び日本人の精神改造を狙い、GHQ 内の民間情報教育局（CIE）が「太平洋戦争史」をバイブルとして「真相はかうだ」番組というラジオ放送を流させた。
- ② 民間情報教育局（CIE）は、番組のタイトルを変えてラジオによる洗脳を、昭和 20 年（1945 年）12 月 9 日から昭和 23 年（1948 年）1 月までの約 3 年間、NHK ラジオのゴールデンタイム午後 8:00～8:30 の 30 分間再放送を含めほぼ毎日、下記の洗脳目的達成するために軍人とその親友による質問形式で放送された。
- ③ 問題なのは、民間情報教育局（CIE）が日本人に戦争責任意識、自虐史観を植えつけたことについては、NHK として何一つ批判していないことである。



# GHQ洗脳作戦の7つ柱 (4)

；5大新聞に全文を連載（10日間）、1945-12-08～

；NHKラジオの『眞相はかうだ』、1945-12-09～

　日曜日の夜 8時からのゴールデン・アワーに30分番組

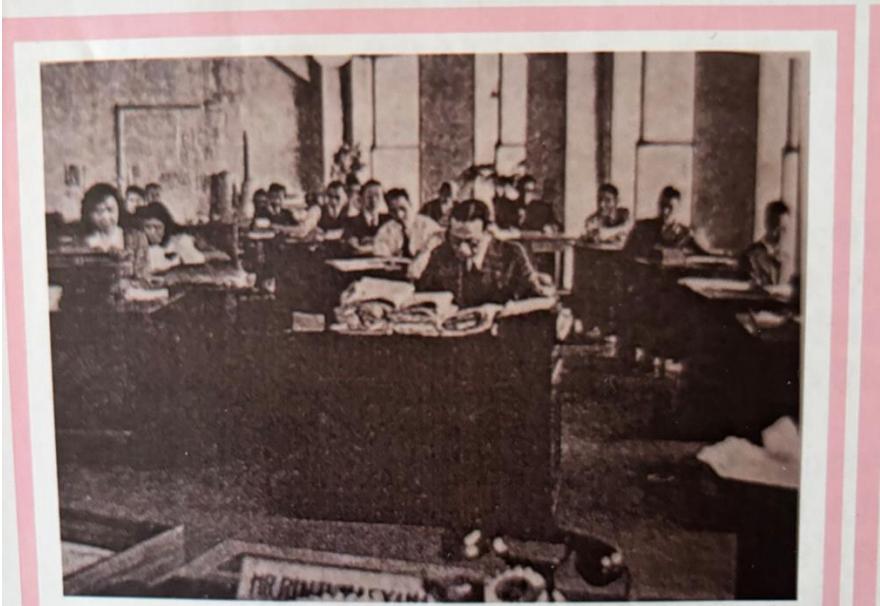
　→ さらに週 2回再放送

第2段階；東京裁判=一大スペクタクル（見世物）

第3段階；南京事件やフィリピンにおける日本軍の

　掠奪などのブラック・プロパガンダ

　∴ 原爆投下やその後遺症など米軍の残虐行為を  
　おおいからくすためのもの



■新聞の検閲現場

占領軍(GHQ)は新聞の事前検閲を行い、占領政策に反する記事の掲載を禁止した。

～出典「GHQの検閲・諜報・宣

# GHQ洗脳作戦の7つ柱 (5)

## ⑥ 徹底した検閲を伴った言論統制

; GHQのCIS/ CCD (民間諜報局/ 民間検閲支隊)

が担当 = 検閲部隊

; 1945-09-27、GHQ指令「新聞と言論の自由に関する新措置」

; 1946-11-25、マスメディアに対する「30項目の検閲指針」(非公表)

; ありとあらゆる言論空間が検閲の対象に  
おそらく、世界史上かつてないほどの大きな規模

# GHQ洗脳作戦の7つ柱 (6)

- ；封書検閲（郵便検閲）  
人海戦術で日本人検閲官を多数採用（最盛時 6,000人）
- ；電話の盗聴
- ；GHQは、検閲の事実を内外に秘匿（隠した）
- ；GHQ洗脳の共犯者にさせられたメディア各社
  - \*洗脳と検閲に関しては、GHQによる直接統治  
それに必要とされる経費は、すべて日本の国家予算  
の中から支出された
- 日本人は、自分たちの税金で、敵国から洗脳されてしまった

占領軍の言論統制と洗脳工作

約2億通の郵便物が検閲された真実とは？  
戦後日本の知られざる一面に迫る、衝撃の展示会が開催！

■郵便物の検閲場面  
占領軍(GHQ)は手紙、はがき約2億通を検閲した。

検閲した。



■電話の傍受(盗聴)の現場  
占領軍(GHQ)は電話の盗聴を80万  
通話行った。

報・宣伝工作」山本武利著～

# GHQ洗脳作戦の7つ柱 (7)

⑦ 壮大稀有（かつてないほど大きい）な歴史認識の大逆転

- ・欺瞞に満ち溢れた東京裁判

- ；「白を黒」、「黒を白」と言いくる史上最大の劇的なパラダイム・シフトをやってのけた

- ；戦勝国による茶番劇以外の何物でもない

- ；そもそも、勝者が敗者を裁くという構図自体が極めてアンフェアでなおかつかつおぞましい発想

- そもそも、初手から完全に間違っている。

# 日本ほど誇らしい国は他にない（1）

- ・そもそも、日本が仕掛けた戦争ではない  
；アメリカが、日本をどんどん追い込んでいった
- ・日本は、戦闘で負けたが、戦争には勝った（理念の勝利）  
；日本の戦争目的（戦争理念）  
=英米植民地の桎梏（自由を奪うこと）からアジアを  
解放する  
→ 戦後、アジアだけではなく、世界の100以上の国々が独立
- ；日本は、1919年の国際連盟規約委員会の時から、人種差別の撤廃を提案

# 日本ほど誇らしい国は他にない（2）

- ；世界史全体を通じて、日本ほど、人権人道面で貢献した国  
は他にない
- ；それに引き換え、英仏蘭は、日本が居なくなった戦後、アジア  
に戻ってきて、かつての自分たちの植民地を再開しようとした  
→日本の活動によって目覚めたアジア諸国は、最終的には歐州諸国を  
追い出し、独立を勝ち得た
- ・万世一系で、2000年間続いている世界で唯一の国
  - ；他の国々は、みな王朝が何度も変って来た
  - ；縄文時代から数えれば、1万数千年続いて来たとても希な国
- ・世界で最も安定した社会・政治制度を持つ日本
  - ；正当な統治は2つしかない  
正統に継承された君主制と正当な選挙で選ばれた民主制  
→日本は、2つとも備えている

# 日本ほど誇らしい国は他にない（3）

- ・戦時中のエピソード

- ；駆逐艦「雷」（いかづち）の艦長・工藤俊作少佐の美談

- ；1942-03-02、前日のスラバヤ海戦で日本軍に撃沈された英艦の敵兵422名を救助・・・「おい、助けてやれよ」の一言

- ；3時間に及ぶ救助作業の後、「雷」に引き上げられた英兵を前に演説し、「諸君は非常に勇敢に戦った。日本海軍の名誉ある賓客である」と述べる。

- ；翌日、日本軍が接収して港に停泊中のオランダの病院船に英兵を引き渡す。

# 日本ほど誇らしい国は他にない (4)

- ・戦前、戦中にユダヤ人を受け入れるのは、日本ぐらいのもの；樋口季一郎少将（当時）オトポール事件（1938年3月）  
　　当時、関東軍参謀総長の東条英機のOKを得ていたから  
；杉原千畝のカナウスのリトニア領事館の「命のビザ」  
（1940年7月）  
；2人とも、ユダヤ人の「ゴールデン・ブック」にその名が  
刻まれている
  - ・しかし、杉原の「命のビザ」の根拠となったのは、すでに大日本  
帝国政府の五相会議における「ユダヤ人対策要綱」（1938-12-06）  
で國の方針が出ていたおかげ  
；ユダヤ人は、本来は、大日本帝国政府に感謝すべき

# 世界史上最も残虐な戦争をしたのは米国

- ・第二次世界大戦におけるアメリカ  
；その最大の被害者は、日本国民
- ・前近代的で野蛮な無条件降伏要求 by ルーズヴェルト大統領  
→ 戦争の長期化、両軍ともに残虐化
- ・日本の非常に多数の都市に対する無差別爆撃（絨毯爆撃）
- ・1度ならず、2度にわたる原子爆弾の投下  
；広島と長崎では、別の種類の原子爆弾を実験  
；本来、「唯一の原爆投下国アメリカ」の方が、人類に対するより有効な警句ではないか。  
×「唯一の戦争被爆国日本」